

(別紙の2)

自己評価及び外部評価票

※「自己評価の実施状況(太枠囲み部分)」に記入をお願いします。[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	照干一隅の理念を共有し、それぞれの持ち場で誓いの十則に徹し、自らが輝いて人を支えていけるよう努めている。	理念を共有し、事業所の目標を定め、一人ひとりが持ち場で頑張るって同じ方向に進めるよう話し合いを行い、何かある時は理念に返るようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	保育園、小学校、中学校との交流、各種行事への参加、利用者様の同級生、知人との交流等を通じて地域と繋がりがりながら暮らしている。	地域に溶け込んだ事業所としてありたいと、地域のお祭りや学校の運動会などにも行事には積極的に参加している。保育園の子供たちとは、お正月の遊びや小正月の行事などを通して日常的な交流があり、季節を感じている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	中学生の福祉体験学習の事前学習や、実習の中で、認知症の方の理解や支援の方法を伝えている。地域へ一緒に出掛けて行き、職員との関わりを見て頂いている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	二ヶ月に一度実施し、報告や話し合いを行っているが、活発な議論にならず、サービスの向上にあまり活かしていない。	利用者の生活の様子や事業計画、報告事項など細かに行っている。身体拘束についても利用者の様子を見る中で意見を頂いている。	委員会で出された意見を記録し評価や分析を行い、サービス向上のための議論を進めて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力を築くよう取り組んでいる。	町の担当者と連絡を取り合い、協力関係を築く様に取り組んでいる。必要に応じて地域ケア会議へ参加したり、包括支援センターの職員と話したりしている。	運営推進委員会にはいつも担当者が出席しており、包括支援センターとも連絡を取り合い、何かあればすぐに対応できる関係がある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	ベッド柵を必要以上に使用せず、転落事故を無くすよう工夫している。防犯以外の施錠はせず、自由に出入り出来ている。	常に拘束をしない方法を考え、研修を行い、拘束をしないケアに取り組んでいる。転倒のリスクのある利用者にはベッドの下に布団を敷くなど工夫している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている。	赤石寮で実施される委員会、学習会等へ参加し、日々自らの言動を振り返り、ストレスコントロールに心掛け、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	研修等への参加の機会は時々あるが、学習会等多くの職員が学ぶ機会は少ない。実際に成年後見人をつけられた方の毎月の訪問を通じて必要性を知ることが出来た。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、契約書を確認しながら説明を行い、不安やご要望にお応えしご理解頂いている。改定等の際は文書で説明し、疑問点等をお聴きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎年行われる法人サービス評価、第三者委員の選出、外部評価等を実施し、ご意見をお聴きして利用者も講評の報告会に参加し、そこでの意見等を運営に反映させている。	利用者への聞き取りや家族アンケート調査を行い意見を頂いている。家族会や来訪の折には声をかけ、話をする中で意見を聞き運営に反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎朝の管理者訪問や代表者来訪時等に職員の意見や提案を聴く機会があり、反映させている。	管理者が毎朝事業所に来てくれたり職員会に出席するので、意見も言いやすく、困っていることなど常に伝えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	法人職員が400人以上いるなかで、直接的な把握は難しい部分もあるが、間接的に把握出来ている。土、日、祝、盆、正月手当等条件の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	介護支援専門員、認知症ケアの研修等法人外の研修を受ける機会の確保、法人内の全員を対象とした研修、エリア内のPT指導等働きながらトレーニングしていく事を進めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	外出時の訪問、勉強会、法人70周年の記念事業等、交流する機会があり、サービスの質の向上に繋がる取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	本人に会いに行き、会話をする中で、言葉で伝えられる事、その背景にあることを考えながら新しい生活を安心して始められる様、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	話しやすい雰囲気作りに心掛け、誠意を持って要望等に耳を傾け信頼関係を築ける様に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホームでの生活を強く希望されて来られる方が多く、本当にそれで良いのか、必要としている支援を見極め対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	一緒に食事したり、掃除、洗濯等、相談しながら日常生活を共にし、支え合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	毎週面会に見える方にはその都度お話しさせて頂き、体調の変化や事故報告等、できるだけこまめに連絡し、本人の思いも伝え共に支えていく関係作りに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	デイサービス、支援ハウスの知人との交流。離れて暮らす奥様との時間、同級生、友人、親族との交流を大切に支援している。	月に一度のお便りは担当者の手書きで、家族だけでなく利用者の子供さん全員に出し、利用者の様子を伝えており、親族との交流を大切にしている。同級会に参加する利用者もあり、関係が切れない支援がされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	一人になりたい時間も大切にしつつ、一つの輪になっての体操やお茶の時間の中での関わり、お互いに支え合えるような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	特養への入所によりサービス利用が終了となる事が多いが、会いに行ったり、必要に応じて家族の方と話をしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の言動の中から、思いや希望の把握に努めている。認知症等により困難な場合はこれまでの生活歴を考慮し、本人本位に検討している。	利用者の行動にはどんな理由があるのだろうかなど、利用者の思いを考え、職員会や申し送りでも共有している。入浴や散歩では個々に関わり話の中で思いをくみ取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	フェースシート等職員全員で共有し、必要に応じて話し合い、これまでの経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	その日、その時、一人ひとりの気分、体調等を把握し、出来そうなことを確認しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	職員会での見直し、本人、家族と相談しているが、共有する事が出来ておらず、現状の変化に追いついていない事がある。	毎月モニタリングを行い、1か月どうだったか職員会で話し合い計画を作成している。家族とはお便りや連絡で相談している。	モニタリングの記録様式を検討され、目標に照らして評価し、現状に即した計画作成に生かして頂きたい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の職員の気づきを個々に記録しており、情報を共有し、申し送りや職員会でも話し合い、見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	個々で訴えられる希望の実現に向け、デイサービスや地域へ出掛けて行き、知人との交流を楽しんでいる。認知症カフェへ参加し、認定看護師に相談し、指導頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	新野で生まれ育った方も多く、出掛けたり来て頂いたり、交流出来る機会を大切にしている。デイサービスで行われた阿南署の警察の方による勉強会へも職員と一緒に参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	阿南病院、新野診療所、それぞれのご希望を大切にこまめに連絡を取り合い、必要に応じて受診し関係作りに努めている。	家族が受診に付き添う時は利用者の様子を書いて持って行ってもらい、医療機関と連携を取り、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	訪問看護さくら、赤石寮の看護師と相談し、便秘や褥瘡が悪化しない様にケアし、必要に応じて受診している。点滴やインシュリン注射をお願いしたこともある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	阿南病院の看護師、地域連携室の方と相談し、出来るだけ早期に退院出来る様に情報交換に努めている。訪問看護、阿南病院からも看護師が来てくれており、日頃から関係作りに心掛けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期になり、先生から指示があると話し合いもすすめられるが、早い安定した状態の時には話が来ていない。今後生前指示書、本人、家族の意向を確認していきたい。	利用者の状況に応じてその都度家族と相談し、特別養護老人ホームへの申請を出したりもしている。事業所のできる範囲もあるので、入所時や早い段階での意向確認の必要を感じている。	事業所のできることを伝えながら、早い段階から今後の方向を確認し、重度化や終末期への支援ができるよう取り組んでいきたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	地域の救急法講習会等での学ぶ機会はあるが、定期的に出来ていない。R2.2月、誤嚥、窒息、救急対応の学習会を予定している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	8月末防災訓練行い、車での避難を実施。訓練には参加出来ない職員も地域の一人として協力していく心構えは出来ている。	地域の方や消防団、利用者も参加し、土砂崩れを想定した車移動の夜間訓練を行った。不安になる利用者の対応や避難の順番など課題があり検討を行った。いろいろやってみて実際の場面で動けるようにしたいと考えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	常に一人ひとりの方の声に耳を傾け、肯定的な言葉掛けに配慮し気分を害さない支援に心掛けている。	ビジネスマナーの研修を行うなどしており、言葉かけには注意し、特に排泄や入浴時は配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	思いや希望を表すことは自由に出来ているが、訴えの強い方が中心になってしまい言葉で伝えられない方が合わせている感じもある。表情や身体の変現をみて思いや希望を把握し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行事や日常の仕事等声掛けはしてみても気乗りしない時は休んで頂いたり、意欲的な時はしたい事が出来る様に環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	二ヶ月に一度出張散髪。ご希望に沿ったヘアスタイルにカットして頂き、家族会の時などメイクボランティアお願いしている。男性利用者は声掛けにより、自分でひげそり出来ている。食事は自前のエプロン使用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	得意料理を作って頂いたり、台拭き、盛り付け、食器洗い等、個々の出来る事を大切に一緒に台所に立ち、食事も会話を楽しみながら頂いている。	季節を感じられるように、お正月ではすり初めや七草粥など行事食や郷土料理を多く献立に取り入れ、会話を通しても楽しんでいる。誕生日には希望のところにしかけるなど個々に対応し、食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量や水分量を記録し、必要に応じて主治医の先生や栄養士と相談し、補助食品等も取り入れて、無理なく必要量が確保できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	JA歯科往診、歯科衛生士訪問により、診察、治療、口腔ケア、口腔ケア指導を頂き日々の口腔ケアを実施しているが、自分でされる方のフォローや朝食後のケアが出来ていない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	昼夜紙パンツ使用し自発的に居室や浴室横のトイレを利用でき、訴えの無い方は時間をみてトイレ介助し、自立に向けた支援をしている。	紙パンツやパットを使用してもトイレでの排泄を基本として、個々の対応を行って、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	不機嫌になったり不穏な様子の背景には便秘が原因の事もあり、水分摂取を促したり、ハチミツやヨーグルト等、薬以外の飲食物を工夫している。毎朝の体操への参加も大切にしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	休憩時間、食事の時間に悪影響を及ぼす事がない様に一日の中で気分良く入浴出来る時間を個々に見つけ支援している。	手足のマッサージを行うなどして見守りゆっくり入浴している。必要な利用者では移動式昇降浴で対応している。午後の時間で個々の希望に沿って入浴し、年に1回は全員で近くの温泉に出かけ楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間眠れない方は日中休む時間も大切に、居室で休めない方は居間の炬燵で休んで頂く等その時々状況に応じて安心して休める様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬の箱に名前を記載したり、訪問看護師と確認し支援している。薬が変更になったときは細心の注意を払い、症状の変化にも配慮している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	季節に合わせた作業(味噌づくり、畑作業、干し柿、わら細工等)を一緒に行い、桜や紅葉を求めてドライブや散歩に出掛けて気分転換出来る様に支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	一日に何度でも希望に添って戸外へ出かけられる方もあり、併設のデイサービスや赤石寮、支援ハウスへも積極的に出掛けている。誕生日には希望を伺い、自宅や馴染みの場所へ外出している。	外に行きたいといえれば止めないように日に何度でも付き添って出かけている。認知症カフェには毎月出かけ、散歩や食材を買いに行くこと、写真展などあるといえれば出かけたりと、外出の機会が多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	小遣いは全員預かっており、必要な時に支払いが出来る様に支援している。お金の心配をされる方には、家族から預かっている旨伝えている。今後は近所の店に飴玉を買いに行く、移動販売を利用してみたい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	毎月のお便り、少しでも本人が書けるように支援し、贈り物が届いた時にも手紙を書いたり電話をかけたりにしている。ご希望のあった時にも電話出来る様に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	温度は20℃前後で快適に過ごせている。共用の空間は自然な明るさがあり、季節の花や折り紙等で飾りつけに工夫している。	西日は強いので光や明るさには気を付けている。神棚があり利用者がお願い事などしている日常があり、自分の家に暮らしているのと同じ状況がある。季節に合わせた作品を飾って楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	塗り絵や読書、新聞を読む等、独りで自由に過ごせたり、2~3名で昔の話が出来たり、全員で風船つきをしたり、日々思い思いに過ごせている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	大好きな絵画を飾ったり、慣れ親しんだ炬燵を置いたり、トイレを使用しやすい様にベッドの配置を変えたり、居心地よく過ごせる様に工夫している。	テレビや使っていたタンスを置いたり、炬燵を置いたり、作品を飾ったり、それぞれに工夫した自分の居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	個室や浴室横のトイレが自由に使用出来たり、バリアフリーの室内を歩行器で自由に移動出来たり、出来る事を大切に安全な生活が出来るように工夫している。		